

一札之事

一、私儀、武州久良岐郡程土^(ママ)ヶ谷宿沢瀉屋彦右衛門
 与申者育^二而、同宿江住居仕候修験職^二而御座候处、
 此度御当郡其外江修行与^(シ)在所出足巡村仕、去月
 二十七日御当村江参り掛候处、俄^二腹痛相煩、其上持病
 之脚気差発步行不相成難義仕居候を、村方之
 衆御見当り、病体旁御尋之上医師見合、食餌・
 服薬等御手当種々御介抱被成下難有仕合奉存候、
 尚又往来手形等所持罷在候哉之段御尋御座候处、
 御当郡辺罷出候節者毎々持参不仕候^二付、此度茂
 所持罷在不申候得共、生国之義者前段之通^二而
 宿元^二者悴藤吉与申者茂同居罷居、全相違不
 申上候、然处於御当所緩々保養仕候様御懇^二
 被仰聞候得共、只今之体^二而者急々全快可仕哉^二
 相見不申、且路用貯等^茂無之候間、是非々々在所
 右彦右衛門所迄宿継送リヲ以片時^茂早く御送届ケ
 被成下候様、達而御歎願奉申上候、此段宜御取計
 被成下候ハ、難有仕合奉存候、依而一札如件

辰八月二日

松輪村

御役人衆中

保土ヶ谷宿沢瀉屋
 彦右衛門育
 当辰四十八才見
 妙

着用持具

- 一、木綿白紺豎縞単物 一た
- 一、同帯 一筋
- 一、袈裟 一掛
- 一、錫杖 一本
- 一、数珠 一連
- 一、紙張 一張

辰八月

見妙

右之通相改相違無御座候、已上

年寄喜
 四郎

添書ヲ以得御意候、秋暑之砌^二御座候处、各様弥
 御壮栄御勤役可被成御座奉珍喜候、然者武州

保土ヶ谷宿沢瀉屋彦右衛門育見妙与申修驗者之由二而、当村方字江奈ノ台与申所二而病氣之体二而臥居候を見当候二付、食餌・服薬等手当致候得共、急快可仕様無之、殊ニ路用貯等茂無之二付、何卒在所江差送呉候様別紙之通達而相願候二付、御役所様江相訴、則口上書一札并着用持具付立相添、(獲輿)青駄ニ乗せ送り出し申候間、於宿村兼而御法之趣を以御取計相成候様致度存候、依之添書差出申候、以上

辰八月

相州三浦郡松輪
名主源兵衛

自相州三浦郡上宮田村
武州久良岐郡保土ヶ谷宿迄

右宿村

御問屋
御名主衆中

右者見妙任願ニ青駄(獲輿)相調乗せ候而、今三日村送仕候間、書類写相調_下 | 午恐此段御訴奉申上候、以上

安政三辰年八月三日

御預所
御役所様

松輪村

百姓代清吉

年寄喜四郎

名主源兵衛